

## ミシシippアカミミガメ低密度地域における日光浴罟の効用

### ～志方町西牧のアカミミガメ防除～

西堀智子 (和亀保護の会)

The use of the basking trap in low density habitats of red-eared slider turtle

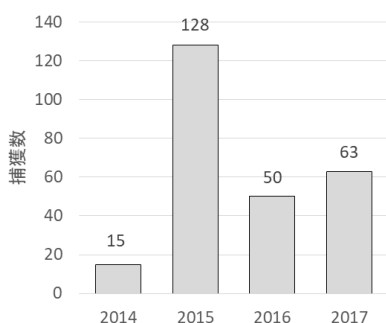
By Tomoko NISHIBORI

加古川市志方町西牧には今も農業に使用される複数のため池があり、地域の人々の手で大変よく管理されている。和亀保護の会では2007年からこの地域の池干しに参加し、ため池のカメ類の生息状況を調査している。当初ミシシippアカミミガメは観察されなかったが、2010年に辻堂池で初めてアカミミガメを捕獲した。その後2012年夏には地域住民がしばしば目撃するようになり、2013年には辻堂池のハスが後退し始めた。そして2014年、片山池の池干しでは背甲長200mm以上のアカミミガメが複数捕獲された。辻堂池と片山池は隣同士の池である。アカミミガメは環境条件のよいこの地域で爆発的に増え、広がったと思われる。2015年、地域のハスと在来生物を守るためアカミミガメ防除の決起集会が行われ、本格的な防除活動が始動した。和亀保護の会もできる限りサポートした。

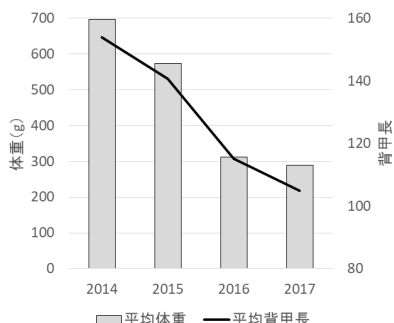
防除は①池干し時の手探り捕獲、②かご罟での捕獲、③日光浴罟の3種類の方法を併用したが、日光浴罟は欠陥があつてカメの脱走や水没などが起こり、修理して機能したのは2016年後半からであった。また池干しでは水の抜き方や時期の影響で、防除が始まってからは上手くいっていない。一般的にカメが高密度で生息している場合はかご罟での捕獲が最も効果的であるが、結果的にこの地域の防除の初期もかご罟が活躍し、2015年に目立つ大型のアカミミガメが捕獲され、2016年には目視観察で確認されるカメの数は一気に減った。辻堂池で後退していたハスも、芽生えが確認されたが、アカミミガメの駆除によって増えたアメリカザリガニが原因で7月には消失した。侵略的外来種の防除の困難さと言えよう。

2017年になるとかご罟での捕獲効率が落ち、機能し始めた日光浴罟で手のひらサイズの個体を中心に捕獲が進み、その年の這い出し個体も複数捕獲された。日光浴罟でも大型の個体から捕獲される傾向があるが、既にかご罟での駆除が進んでいたため、幼体までもが日光浴罟に上がったのだろう。

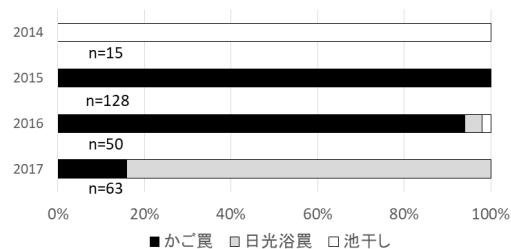
この地域のアカミミガメの低密度化が短期間で実現したのは、問題が明らかになってすぐに地域住民で駆除を始めたのが功を奏したと思われる。今後はアメリカザリガニを捕獲しながら、かご罟ではなかなか入らない小型のアカミミガメを日光浴罟で根気よく捕獲し続け、地域での完全駆除を目指す。



年毎のアカミミガメの捕獲数



捕獲したアカミミガメの年毎の平均体重と平均背甲長



各捕獲スタイルによる捕獲の割合